

5-1 水利用の現状

発電用水としては、小里川発電所（平成 15 年完成）において最大 3.00m³/s が利用され、最大出力 1,800kw の電力を供給し、玉野発電所（大正 10 年完成）において最大 4.17m³/s が利用され、最大出力 500kw の電力を供給している。

項目	区分	件数	最大取水量(m ³ /s)	摘 要
発電用水	法	2	7.170	
上水道用水	—	—	—	
工業用水	法	8	3.981	
農業用水	法	7	3.660	かんがい面積 221ha
	慣	2	—	
雑用水	法	4	0.516	

慣：河川法施工前から存在する慣行水利権



86

庄内川では、工業用水、農業用水等が取水されている。今後の水需要の動向は以下に示すとおりであり、庄内川からの新たな取水は見込まれていない。

しかしながら、派川等への導水などの動きや、人々の河川環境への関心の高まりなど、新たな庄内川の水資源への要請も課せられている。

○上水道用水

庄内川の上水道用水利用はなく、庄内川からの新たな取水は見込まれていない。

○工業用水

工業用水は、庄内川から $3.981\text{m}^3/\text{s}$ を取水しているが、庄内川からの新たな取水は見込まれていない。

○農業用水

農業用水は、庄内川から $3.66\text{m}^3/\text{s}$ を取水しているが、農地面積が近年減少傾向にあるため、庄内川からの新たな取水は見込まれていない。

○発電用水

発電用水としては、小里川発電所（平成15年完成）において最大 $3.00\text{m}^3/\text{s}$ が利用され、最大出力 $1,800\text{kW}$ の電力を供給し、玉野発電所（大正10年完成）において最大 $4.17\text{m}^3/\text{s}$ が利用され、最大出力 500kW の電力を供給しているが、庄内川からの新たな取水は見込まれていない。

庄内川流域では、発電用水を除きほとんどの地域で、東濃用水、愛知用水、名古屋市上水道用水など、木曽川水系からの取水により水需給を満たしている。庄内川に対する新たな水資源開発の要請はない。

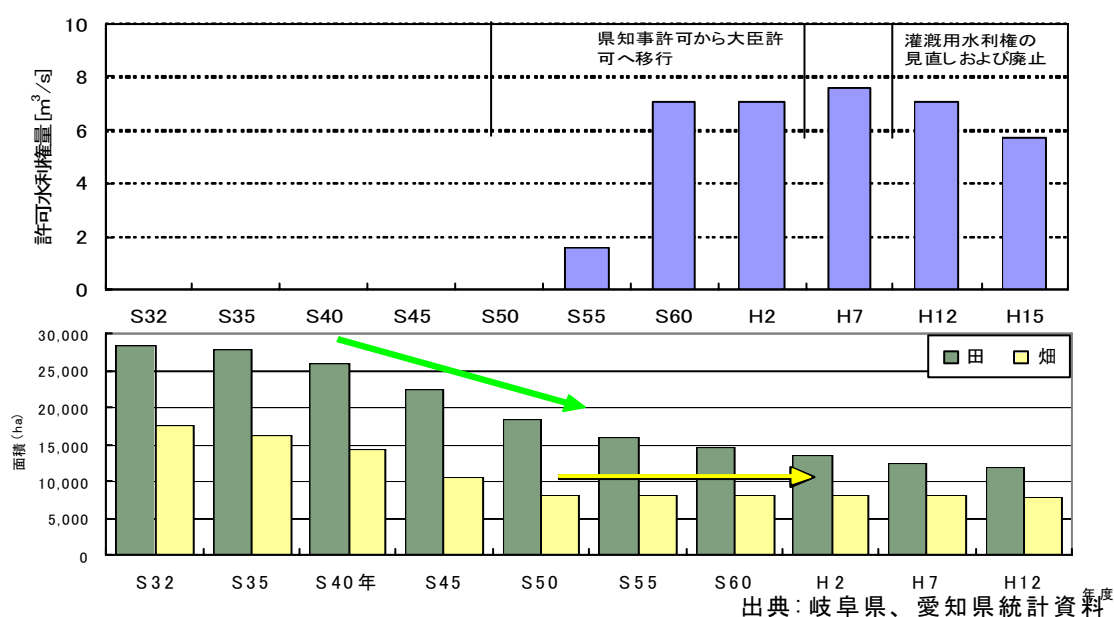
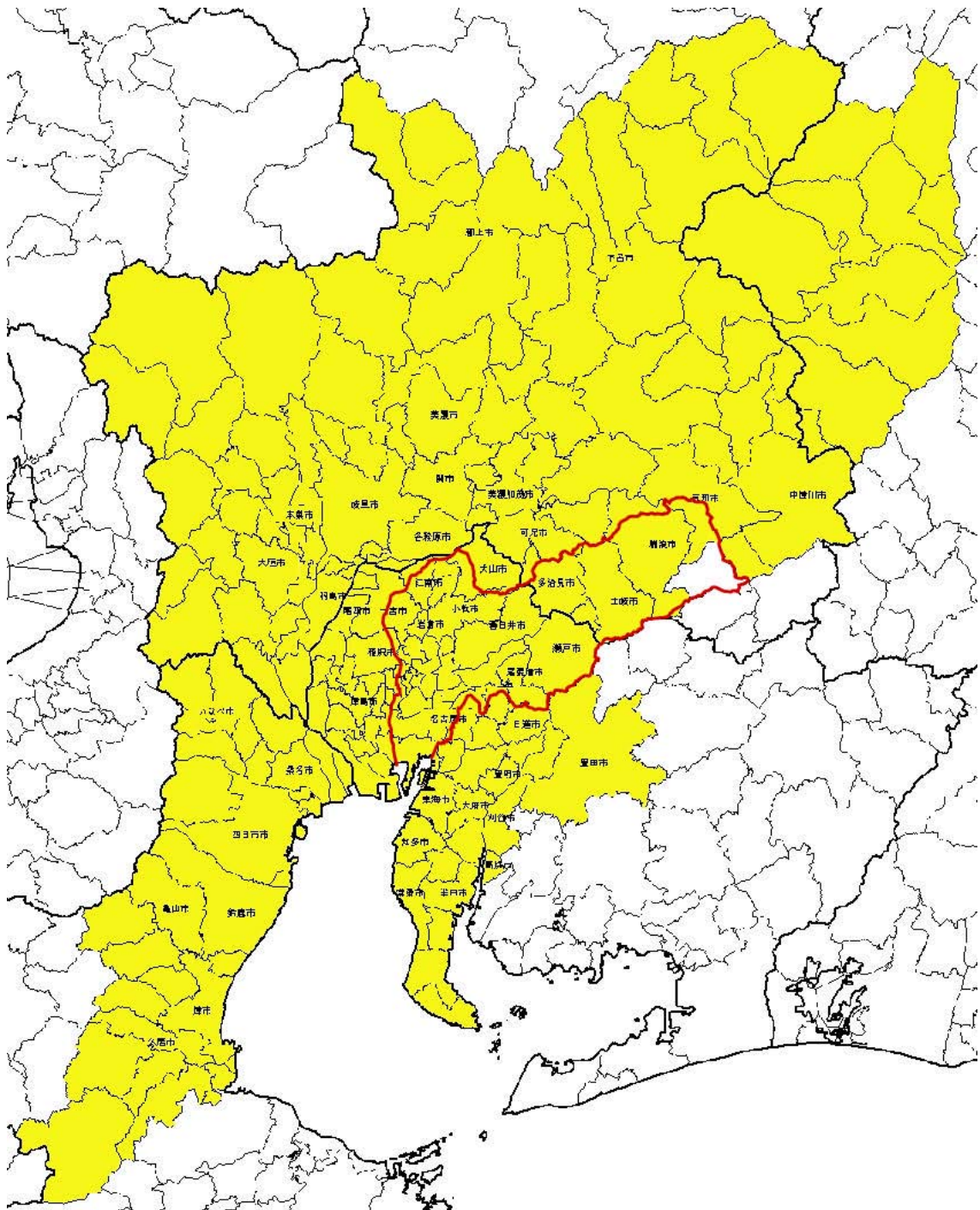


図-5.3 農業用地の経年変化と許可水利権量の経年変化

庄内川流域を含む周辺地域における水需要の動向は「木曾川水系における水資源開発基本計画」に示される。



出典：木曾川水系における水資源開発基本計画

図-5.4 木曾川水系水資源開発基本計画需要想定エリア

5-2 渇水被害の概要

中部地方を中心とする愛知県では、断続的な水不足に悩まされており、特に、1994年（平成6年）の渇水は、中部地方だけでなく全国的な水不足を招いている。

庄内川流域の都市用水は、木曽川水系からの東濃用水、木曽川用水、愛知用水、名古屋市上水道用水により賄われており、木曽川水源地域での渇水の影響を受ける。平成6年の渇水は、6月～10月中頃までの約5ヶ月間の長期間に渡って起きたものである。木曽川水系牧尾ダム、岩屋ダム、阿木川ダムの貯水容量は底をつき、過去最大の取水制限（上水道35%、農業・工業用水65%）が実施された。庄内川においては、流量の減少に伴い水質の悪化の恐れがあることから河川状況や取水実態の把握に努めたが、利水制限を行うまでには至らなかった。

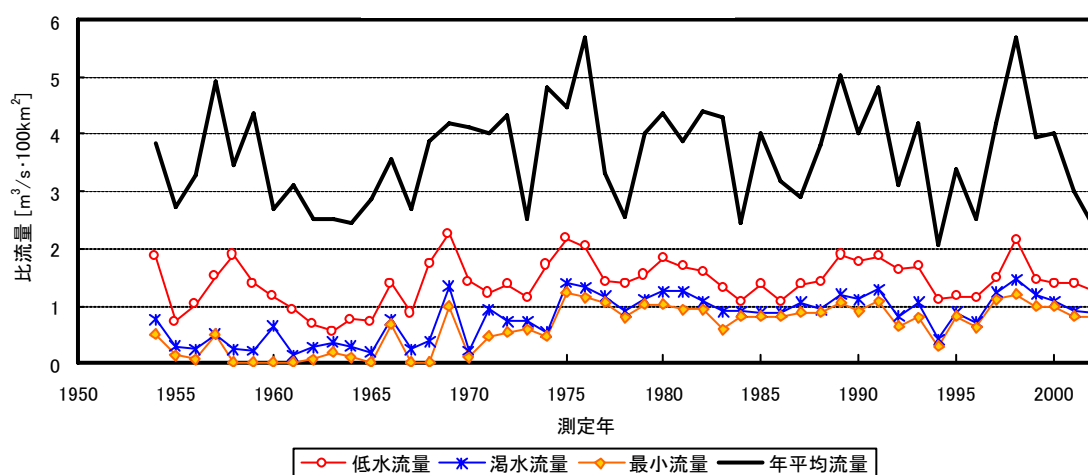


図-5.5 枇杷島における流況の経年変化



発生地域 発生年度	木曽川水系 牧尾ダム				木曽川水系 阿木川ダム				木曽川水系 岩屋ダム			
	取水制限期間	最大取水制限率			取水制限期間	最大取水制限率			取水制限期間	最大取水制限率		
		上水	工業	農水		上水	工業	農水		上水	工業	農水
H6	6/1～11/13 166 日間	35%	65%	65%	7/11～11/13 126 日間	35%	65%	—	6/9～11/13 158 日間	35%	65%	65%

図-5.6 平成6年当時の渇水状況

出典：平成6年度渇水報告書



読売新聞 (H6. 6. 14)



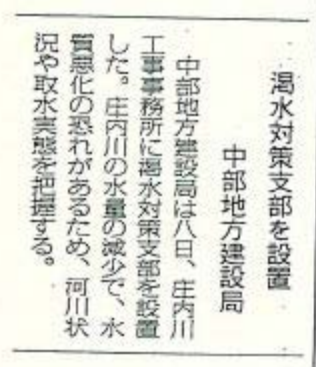
読売新聞 (H6. 8. 12)



中日新聞 (H6.11.12)



毎日新聞 (H6.9.5)



毎日新聞 (H6. 8. 9)

図-5.7 平成6年の渇水状況